

2019年4月14日

青島大学での留学生活について

1. はじめに

一年前には、まさか自分自身が中国に長期留学へ行くことなど考えてもみなかった。ただ何となく第二外国語の選択で中国語を選んだだけだった。その時の私は、中国はどんな国なのか知ろうとせず、メディアを通してしか中国を見ておらず、中国に対して少し偏見を抱いていた。しかし大学一年生の時に参加した語学文化研修でオーストラリアに行った時に中国人の学生と仲良くなり、彼らと話し、彼らの優しさに触れることで、いかに自分が中国を知ろうとしていなかったのかと気付きとても恥ずかしくなった。それと同時に自分の目で中国を見たい、中国はどのような国なのかを知り、また中国人はどういった人なのか学びたいと思うようになり、中国への長期留学を決意した。

青島市は、中国東部の山東省に位置している都市で、「青島ビール」で日本にも馴染みが深い都市である。多くの観光地や大型ショッピングセンター、高層ビルが立ち並ぶ街だが、過去にドイツの租借地であったことから、旧市街の中心部にはドイツ様式の建物や街並みが残されており、様々な景観を楽しめる都市である。

そんな青島市に来て約1か月が経過した。不安でたまらなかった留学生活だが、少しずつここの生活にも慣れてきた。今回のレポートでは、青島大学での生活や生活に必要な手続きについて紹介する。

2. 寮生活について

青島大学には、敏行楼と新楼という留学生専用の寮が2つある。私は現在敏行楼にルームメイトと2人で住んでいる。留学に来る前は、違う国籍の留学生同士でルームメイトを組むと思っていた



が、手続きをする際に寮の方に日本人同士で組むことを勧められたため、日本人とルームメイトを組むことにした。寮は南向きか北向きか、バルコニーが付いているかどうかで部屋の料金は変わってくるが、私は南向きのバルコニーなしの部屋に決め、1年間分の寮費の13,800円を支払った。



部屋は8畳ほどの広さで、ベッド、勉強机、タンス、クローゼット、エアコン、トイレ、シャワー、洗面台がついており、快適な寮生活を送ることができる。部屋はオートロックでカードキーがないと開けることができない。また夜になると寮の入り口もこのカードキーがないと開けることができなくなるので、不審者が寮に入ってくる

という心配をすることなく、安心した寮生活を送ることができる。

青島大学に来て約一週間後に寮の受付でWi-Fiを購入することができる。部屋で1つWi-Fiを購入すると4つの電子機器を接続できるので、ルームメイトとシェアして2つずつ使用する。この期間を逃すとWi-Fiを購入できないので注意が必要である。

一階には共同の洗濯機があるので、自分の好きな時に洗濯することができる。洗濯は一回ごとに5元必要となる。携帯のアプリか現金でお金を払うのだが、現金の場合コインしか使えないので、両替の手間などが必要になり不便だ。また、多くの留学生が洗濯機を使用するため、人の少ない朝や昼間などに洗濯することをお勧めする。乾燥機も洗濯機と同様に5元で使用することができるが、部屋にワイヤーがあるので、そこで洗濯物を干すことができる。



2. 入学手続きについて

入学手続きは青島大学に到着した翌日の朝に行った。多くの留学生が入学手続きを行うので、早めに行って手続きを行うことをお勧めする。入学手続きには、パスポート、パスポートのコピー、入学許可証、JW202、証明写真(背景が白のもの)、学費 400 元、保険代 200 元、教科書代 144 元が必要だ。入学手続きの際に日本で事前に受けた外国人体格検査の結果を提出したが、検査結果が英語で記入されていたため中国の病院にもう一度行く必要があると言われた。そのため中国に行ってから検査を受けたほうが手間にならなかったと感じた。

入学手続きの際にクラス分けのための簡単なテストがあり、教科書を読まされ、それによってクラスを決められた。しかし最初の1週間は授業を受けてみて自分でクラスのレベルを変えることができるので、あまり身構えなくても大丈夫である。

3. 携帯電話と銀行口座について

中国で銀行口座を開くためには中国で利用できる携帯番号が必要となるため、まず先に携帯電話の準備を進めた。私は中国で携帯を購入してそれを使用するつもりだったので、大学外にある中国の携帯ショップへ行き、中古の携帯電話を購入した。そのあと大学内にある中国移动(China Mobile)という携帯ショップへ行き、SIM カードを購入し電話番号を決め、契約が完了した。私は中国で携帯を購入したが、携帯電話の中に日本語設定がなく操作が不便であったため、日本で使用していて使い慣れている携帯電話を予め SIM ロック解除や SIM フリーにしておき、中国で使用するをお勧めする。

次に銀行口座の開設だ。初めに中国銀行へ行ったが、その時はまだビザの居留許可を取得していなかったため、口座を開設できないと断られてしまった。2 軒目に中国建設銀行に行ったところ、ここではビザの居留許可を取得していなくても口座を開設することができた。口座の開設には、パスポート、携帯番号、身分証明書(運転免許所など)、マイナンバーの番号が必要であった。

4. 食生活について

寮の各階には共同の厨房があり、電子レンジや IH などが備わっているので、必要な道具を自分で揃えれば自炊もすることができる。しかしあまり衛生的ではないのと、食材や道具を揃えるのが大変なので私は使用していない。

敏行楼の 1 階にはカフェがあり、2階には食堂があり、食堂には麺類やハンバーガーなど様々な種類のお店がある。また敏行楼を出てすぐ横にセブンイレブンもあるので食べる場所に困ることはな





い。寮を出て 10 分ほど歩いたところにも中国人の学生がよく利用する 2 階建ての大きな食堂もあり、敏行楼の食堂に比べると種類も多いので、ここに行けば自分の食べたいものを食べることができる。

中国のご飯は美味しく、日本に比べるとかなり安い値段(一食 15 元程度)で食べることができるので食べることは1日のうちの一番の楽しみになっている。またお米も簡単に食べることができるので主食がお米の日本人にとってはとても有難い。しかし中国は脂っこい料理が多いので、自分で食生活を調節する必要があると感じる。

5. おわりに

中国に留学へ行く前は、中国がどんな場所なのか、中国人とはどんな人なのか、自分の中国語力で生活できるかなど多くのことが不安でたまらなかった。しかしほとんどの中国人は、私たちが外国人だからといって避けることなく優しく話しかけてくれたり、翻訳機を使用して日本語で説明してくれたり、英語で説明してくれたりとお優しく助けられながら生活を送ることができている。留学中感じた人々の優しさに感謝しながら、残り約 9 か月、悔いのない留学生活を送っていきたい。